Topic3 災害時における電気設備等の応急対応業務に関する協定を締結

市では、加世田電気工事工業協同組合と「災害時における電気設備等の応急対応業務に関する協定」を７月11日に締結しました。

これにより、大規模災害発生時に市が管理する公共施設などの電気設備等に支障が生じた場合に、同組合が応急業務を行うこととなります。

Topic4 火の神乙女太鼓爽と関利治さんに県青少年育成県民会議表彰

青少年育成に関し、地域で特に優れた活動を行い成果をあげている個人・団体に贈られる平成25年度鹿児島県青少年育成県民会議表彰を、火の神乙女太鼓爽と関利治さんが受賞しました。

火の神乙女太鼓爽は、市内の各種イベントや公民館、施設等での演奏など、地域に根ざした活動を積極的に行っています。メンバーの小湊萌未（もえみ）さん（枚崎高３年）は「私たちの活動をもっと知ってもらって、たくさんの人に太鼓に興味を持ってもらいたいです」と話していました。

関利治さんは、平成５年から社会教育指導員を務め、平成18年には「金山わんぱく塾」を設立し、地域の恵まれた自然や身近な素材を生かした遊びのほか、地域の高齢者と子ども達との世代間の交流活動など、地域ぐるみの青少年育成にご尽力されました。関さんは「地域社会の為に役立てばいいなと思って活動してきたことが、このような形で表彰されるとは正直、驚いています」と話していました。

Topic1 災害に備えて地域を確認～立神地区災害図上訓練

災害図上訓練が７月20日、サンフレッシュ枕崎で実施されました。今回は立神地区を対象とした訓練が行われ、同地区内の自主防災会や消防団、学校関係者など約60名が参加しました。鹿児島県防災アドバイザーの馬渡和男さんの指導のもと、参加者は立神地区の地図を囲みながら、大災害が起こった場合の地域の諸問題を話し合い、地図上に災害情報等の書き込みを行っていきました。関係機関が連携をして、訓練を行うことでより身近で現実的な災害対応を行い、被害の軽減を目指すことを目的に行われる図上訓練は、他の地区でも実施される予定です。

Topic2 今、思うことを力強く発表～枕崎市中学校弁論大会

枕崎市中学校弁論大会が７月２日、市民会館で開催され、市内各中学校の代表８名と、特別参加の高校生３名が発表しました。発表者はそれぞれの思いを力強く発表し、その堂々とした姿に、会場からは大きな拍手が送られていました。最優秀賞には「世界に向かって私は進む」と題し、県青少年国際協力体験事業に参加し、青年海外協力隊の活動を現場で見て感じたことを発表した、篭原莉子（りこ）さん（桜山中２年）が選ばれました。

わが町の人を訪ねてロマネス句

エンターテイナー“ちゃんサネ”さんが枕崎にゆかりのある人を訪ねインタビューし、ようよう一句ひねります。

file.14

人に導かれて今の自分がある

まくらざきハーモニーネットワーク委員会会長
片山 弘子さん（69）

PROFILE
１９４４年生。岩戸町。高校卒業後上京し、19歳で結婚。１９９４年に枕崎に夫と義父と帰郷。１９９８年頃からフラダンスを始め、２０１１年に講師資格を取得。２００６年からはまくらざきハーモニーネットワーク委員会会長を務め、今年で４期、８年目を迎える。

片山弘子さんをよく見かける、いろんな催しで。ある時は赤いエプロン姿で茶節を振る舞っていたり、ある時は桧舞台で色とりどりのワンピース姿でフラダンスを踊っていたり、ある時は合唱団の一員として清楚ないでたちで歌っていたり、またある時は「結の会」や「食を考える会」など、さまざまな公共の集会で座っているだけではなく、発言をする。「目立っとっどお、品がよがで～」と声を投げかけると「きんごきんごしてるでしょよが、磨きがかかってんのよ」と、快活なやりとりが嬉しい方だ。そんな活発なこの街の女性リーダーが「はい、わかりました」型のタイプだったとは意外だった。

片山さんは語る、「私の人生は自分からどうこうしようと行動を起こしてきたんじゃなくて、常に人の動機がきっかけのようなものでした。高校を卒業して事務手伝いをしていて、ある日友達の付き添いで職安に行ったつもりが、東京でバスガイドに就職する運びになったし、もうすぐバスガイドになろうという矢先に兄が話を運び、結婚したのも、子供たちを育てるうちにいつの間にか父兄の役どころへ就かされていったのも、夫・義父とともに、その意志で私の出元である枕崎へ転居したことや、義父の勧めで若いうちに数々の国に旅行したことも含めてさまざまな転機がそうでした。自我があったのかどうか。だから導いていただいた運命をありがたく思います」。

「主婦として平凡な日々を送る中で、マリンコーラスに誘われて合唱を楽しむことになったのが社会的なことを考えるきっかけになりましたね。そして、親や夫を亡くした後で、ときに振り返るように感じ出したのは、みんなが道をいざなってくれて幸せだったという気持ちなんですね。それで何か役に立てることはないかと模索していた時に、ある一泊旅行の宴会の出し物で、おはら節をフラダンスで踊っているのを観て〝これだ！〟って思いましたね。フラダンスで日本の民謡を踊るならお年寄りだって馴染みがあるから楽しいはず。この時は、自分からこれをやろうと一念発起しましたね」。〝何かお役に立ちたい〟という心の奥の声の主に従ったのではないだろうか。フラダンスを始めて早15年、今では大人・子ども延べ百人以上を指導する先生である。市内外のイベントでの披露はもちろん、老人福祉施設等にボランティアで訪れ、多くの人の前でフラダンスを踊り続けている。

「マリンコーラスでね、市民会館のピアノにお世話になってるのよ」と片山さんは語る。その思いのままにボランティアグループ「響き」を立ち上げ、〝ピアノ夢基金〟を募り続けている。「響き」の立ち上げから数年、気がつけば男女共同参画施策の申し子である「まくらざきハーモニーネットワーク委員会」の会長にもなっていた。同委員会は市内８つの女性グループが集まった総合活動チームである。かつおまつりでの茶節の振る舞いや火之神公園での清掃活動など年間を通じてさまざまな活動をしており、実に活発である。

▲２月16日の県下一周駅伝で、茶節と腹皮の唐揚げを振る舞うハーモニーネットワーク委員会。

ＰＴＡ役員を引き受けたときもそうだったが、誰もが尻込みする状況でいつも人からの勧めに従ってきたおかげで今の片山さんがある。なるほど「そいでぇ難（むつ）かすなが、たっぷいとした優しさがすったらなぁ」と謎が解けた思いがした。

礼を受け　礼を返して
愛がとさん
（唱）お蔭ん徴（しる）っぢ
美（み）ごっかレイを